

閉会迫る！！

技を極める—ヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸

～8月6日(日)まで



親子向けギャラリーツアー(5月6日)の様子

いよいよ、会期も残りわずかとなりました。本展は、ヴァン クリーフ&アーペルの「技」と、長い歴史の中で育まれた日本工芸の「技」の対比や結びつきを紹介しています。また、もう一つの目玉は建築家の藤本壮介氏による会場デザインです。鮎屋のカウンターを思わせるような18メートルの檜のテーブルや、多くのガラスケースを林立させた空間演出に心を奪われます。他館への巡回はありませんので、この機会をお見逃しなく！



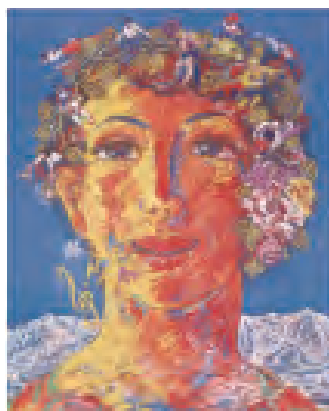
《フューシャクリップ》1968年
ヴァン クリーフ&アーペルコレクション
(Patrick Gries © Van Cleef & Arpels)

次回企画展
(3階にて)

絹谷幸二 色彩とイメージの旅

8月22日(火)より開催

日本の美術界において第一線で活躍している作家の一人である絹谷幸二は、1966年に東京藝術大学美術学部油画専攻を卒業後、同大学院では壁画を専攻し、アフレスコの研究に邁進しました。本展覧会は、絹谷幸二の初期から現在に至る代表作を展示するとともに、素描や陶芸、ガラス作品に至るまで、この作家の多彩な活動の全貌に迫ろうとするものです。



《銀嶺の女神》1997年
この女神に、見覚えはありませんか？
ヒント：冬・5つの輪

アフレスコ
技法とは？

一般的には、フレスコ画といわれる技法で、下地の漆喰壁が乾かないうちに、水で溶いた顔料で描く技法を指します。フレスコとは、イタリア語で「新鮮な」を意味します。顔料は、漆喰壁と一体化して、乾き固形化するので絵が剥落する心配のない、とても堅牢な画面が出来上がるのが特徴です。限られた時間の中で描かなければならず、あとで修正もきかないこの画法には、技術の熟練はもちろん、綿密な計画と素早い判断力が求められます。参考：世界美術事典(新潮社)

友の会特別解説会

日時：9月8日(金)午後6時～7時

集合場所：当館1階講堂前

解説者：平井啓修(当館研究員)

申込先：京都国立近代美術館 総務係

電話：075-761-4111

(月曜から金曜まで、午前10時～午後5時)

メール：info@ma7.momak.go.jp

(件名は「友の会特別解説会申込み」としてください)

※お申込みの際、お名前・会員番号をお伝えください

会期中はイベントも盛り沢山！！

いずれも会場は当館です。一部、事前予約なども必要ですので、当館ウェブサイトをご確認の上、奮ってご参加ください。

仲道郁代トークショー、ピアノ・リサイタル

8月25日(金)午後5時30分～(午後5時開場)

出演：仲道郁代、永守重信、絹谷幸二

対談

9月1日(金)午後6時～7時30分(午後5時30分開場)

講師：山極壽一、絹谷幸二

絹谷幸二 公開制作

9月9日(土)、10日(日)午前10時～午後4時

鼎談

9月15日(金)午後6時～

出演：宗由貴、小池薫、絹谷幸二

ファミリープログラム「アフレスコで描いてみよう」

9月16日(土)午前10時～、午後2時～

講師：絹谷幸二

対象：小中学生とその保護者

神尾真由子ソロ・ヴァイオリン・リサイタル

9月17日(日)午後6時～(午後5時30分開場)

出演：神尾真由子

ギャラリートーク

8月26日(土)、9月3日(日)、9月23日(土)

各日午後3時～

9月29日(金)午後6時～

講師：絹谷幸二

東京音楽大学コンサート

9月30日(土)午後5時～

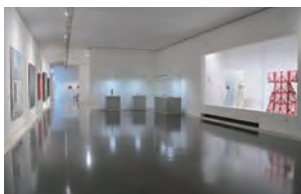
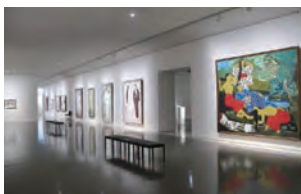
正解は裏面に

コレクション展 (4階にて)

平成29年度 第2回コレクション展 ～8月6日(日)まで

4階コレクション・ギャラリーでは「キュレトリアル・スタディズ 12：泉／Fountain 1917-2017」の第2弾「Case 2: He CHOSE it.」をはじめ、フランス近代絵画の名品、夏の日本画、人間国宝の作家による工芸作品など、全130点、見ごたえ十分なラインナップ！

- ・特集展示：フランス近代美術の粋
—印象派からエコール・ド・パリ
- ・カッサンドルのポスター
- ・夏の日本画
- ・人間国宝の工芸
- ・河井寛次郎の陶芸—初期作品を中心に
- ・特集展示：没後20年 麻田浩の絵画
- ・キュレトリアル・スタディズ 12：
泉／Fountain 1917-2017



▲コレクション展の様子



キュレトリアル・スタディズ 12：泉／Fountain 1917-2017

Case 2:

He CHOSE it.

マルセル・デュシャン《泉》をめぐる事件を検証すべく「キュレトリアル・スタディズ 12：泉／Fountain 1917-2017」と題し、《泉》およびマルセル・デュシャンを一年間、全5回に渡って特集します。いよいよ第2回。美術家・藤本由紀夫氏をキュレーターに迎えての「Case 2: He CHOSE it.」(8月6日まで)が好評開催中。観覧会場には《泉》が5つも?ぜひ、みなさんもこの事件の目撃者に。

美術家・藤本由紀夫

1950年名古屋生まれ。70年代よりエレクトロニクスを利用したパフォーマンス、インスタレーション、80年代半ばよりサウンド・オブジェの制作を行う。音を形で表現した作品を個展やグループ展にて発表。第49回・第52回ヴェネツィア・ビエンナーレに参加。



「技を極める」展 5万人突破!

6月29日(木)、「技を極める」の来場者数が5万人に到達し、記念セレモニーを行いました!記念すべき5万人目のお客さまは、東京



京都からお越しの河村真樹子さん。柳原正樹館長より、観覧会図録とオリジナルトートバッグが贈呈されました。観覧会閉幕まで、わずか1カ月余り。皆さまのお越しをお待ちしております!

MoMAK Films

日本の怪奇映画特集 7月21日(金) 22日(土)

ガメラ映画の併映作から日本初のピンク映画の監督による異色作まで……。一昔前のJホラーブームに教わるまでもなく日本映画は恐ろしい。そしてもちろん、ここでの「恐ろしい」は「面白い」と同義である。

1 『吸血鬼ゴケミドロ』 1968年(松竹)

7月21日(金) 18:00-19:24 (17:30開場)

国内線の旅客機がハイジャックされ、無人の荒野に不時着、命を取りとめた乗客乗員に謎の生命体が襲いかかる……。 **上映後、北小路隆志氏を講師に招き、アフタートークを開催!!**

2 『妖怪百物語』 1968年(大映)

7月22日(土) 14:00-15:19 (13:30開場)

悪辣な豪商が寺社奉行と結託して町人たちの長屋を取り壊して遊郭を作ろうと目論むが、彼らの前に次々と妖怪たちが出現して……。

3 『東海道四谷怪談』 1959年(新東宝)

7月22日(土) 16:00-17:17 (15:45開場)

数多くの怪談映画を監督した中川信夫の様式的かつ大胆な恐怖表現と、天知茂の虚無的な演技が組み合わされて崇高な雰囲気さえ漂わせる。



4 『怪談異人幽霊』 1963年(大蔵映画)

7月22日(土) 18:00-19:10 (17:45開場)

京子(扇町)は既婚者のロバートと恋仲になり、妻をうとましく思ったロバートは妻を殺害するが、二人はペギーの幽霊に悩まされる……。

1プログラム：520円(当日券のみ)
チケットは会場1階インフォメーションにて、以下時間で販売。
7月21日午後17時～ / 7月22日午後13時～
会場：当館講堂
各回入替制・定員100名
企画協力：北小路隆志(映画評論家/京都造形芸術大学准教授)
板倉史明(神戸大学大学院准教授)

NEWS!!

7月1日(土)から10月14日(土)までの期間は、
金曜日、土曜日の開館時間を
午後9時まで延長します。
(入館は、午後8時30分まで)
@ M o M A K @ N I G H T

京都国立近代美術館賛助会員
当館は下記、賛助会員の皆様からご支援・ご支持をいただいております。

<特別会員>
木下グループ

<一般会員>
ワコール **KYOCERA** **中央信用金庫**

→ (表面 正解) 1998年開催の長野オリンピック公式ポスター。バックには、長野県の槍ヶ岳が描かれており、各種競技をおこなう選手が、髪飾りとして表現されています。